

## 令和４年度 第１回 長野市学校給食センター等運営審議会 議事概要

期 日：令和４年11月21日（月）

開会時刻：午前10時

閉会時刻：午後零時20分

会 場：長野市第四学校給食センター（大字村山）

出席者：委員15名（欠席者７名）、事務局22名

### １ 開 会

### ２ 挨 拶

### ３ 自己紹介

### ４ 審議会の位置付けについて

### ５ 会長の選出

- ・委員の互選により、清水委員を会長に選出
- ・清水会長の指名により竹内委員を職務代理者に選出

### ６ 会長挨拶

### ７ 会議事項

#### 【報告事項】

- (1) 長野市学校給食の概要について
- (2) 長野市第一学校給食センターの概要と食に関する指導について
- (3) 長野市学校給食センターにおけるアレルギー対応食と食物アレルギーに関わる取組みについて
- (4) 物価高騰による学校給食費の対応について

#### 【質疑応答】

委 員： 給食費高騰について、第一学校給食センター管内で10月に２回出ているデザート単価はいくらか。

事務局： 正確な数字では無いが50円から60円程度である。

委 員： デザートを控えれば給食費の値上げをしなくても済むのではないか。  
現在、給食以外にもデザートやお菓子を食べる機会が多く、子を持つ親として、デザート・お菓子を食することが子どもの健康面に与える影響を心配している。教育委員会・学校・養護教諭・栄養教諭で連携を図って、回数の見直し等含め検討していただきたい。

事務局： 食材費の高騰の影響を受ける中で、最初に考えたのが、添加物（デザート・ジャム・ふりかけ等）・混ぜご飯（栗ご飯等）・混ぜパン（メロンパン等）の回数を減らせば高騰分を吸収できるのではないかというこ

とである。全ての添加物・混ぜご飯・混ぜパンを無くすことで、コスト面である程度の効果はあると見込んでいる。ただ、給食の添加物を楽しみにしている児童・生徒は多い。今年度、給食センターで添加物・混ぜご飯・混ぜパンを一切提供しない月があったが、その時は保護者から「何故デザート等が出ないのか」問い合わせを受けた。デザートを心配する声もあれば楽しみにしている声もある。現場の声も聴きながら、検討する。

委員： 給食費の滞納はあるのか。また、滞納している場合でも給食は提供されるのか。

事務局： 長野市において、給食費は学校徴収金の一つであり、学校が保護者からお金を徴収し、給食センターに給食費として支払っている。徴収率は99.9パーセント以上であるが、100パーセントではなく、滞納も発生している。給食費を滞納している場合でも、給食の提供が中止した例は無い。学校側が保護者に働きかけていただいていることでこの徴収率を維持できていると認識している。

委員： 栄養・食育・安全に配慮して給食を実施していただき感謝している。学校給食摂取基準について、あくまで平均的な数字であり、児童・生徒の実態に沿った弾力的な運用が可能であるが、長野市では児童・生徒の実態を把握し、目標値を変更する等の運用をしているのか。

事務局： 給食センター管内では学校給食摂取基準を目標値にしており、管内の児童・生徒の現状を把握し、目標値を変更することはしていない。

委員： SDGsの観点から、県産・市内産の地域食材を積極的に活用することは良い取り組みである。今後も実施していただきたい。

事務局： 引き続き、実施していく。

委員： センターの主食の提供回数について、ご飯が週3回・パンが週2回であるが、鬼無里と大岡では、ご飯を週4回提供している。何故2つの調理場ではご飯の回数を増やしているのか。昨年度の運営審議会でも提案したが、小麦が使われる回数が多すぎるため、パンの提供を抑える等、小麦の回数を減らしていただきたい。

事務局： 鬼無里・大岡でご飯の回数が多い理由として、調理場で炊飯しているため、コストが低いという点が挙げられる。戸隠・鬼無里・大岡・中条学校給食共同調理場では調理場で炊飯しており、代金に輸送費や加工賃が含まれているパンより安い。昨年度、小麦粉の回数を減らすべきという提案については、グルテンによる健康被害を心配してのことであったと思う。グルテンについては、「令和2年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補について」の中で、『様々な健康影響に関

する情報の真偽について事務局で情報収集した結果、公的機関からの知見、情報等を見出すことはできなかった。議論の結果、直ちに自ら評価すべき案件ではないことが確認された。』と審議されている。自己免疫疾患や不耐症、アレルギーのある児童・生徒に関しては、医師の助言の下、摂取を控える必要があるが、そうではない児童・生徒に対しては摂取を控える必要はないと認識している。献立の組み合わせや、幅広い食材をバランスよく取り入れるという点から、現在の主食の提供回数としている。

委員： 学校での黙食について、自分が子どもの頃は「ご飯は黙って食べましょう」という指導は当たり前であったと思う。教育委員会として、黙食は本来の給食の姿という認識でよいのか。

事務局： 給食の時間中の話は、児童・生徒のコミュニケーションに必要なものであると認識しているが、大声での会話により、学級内で感染が拡大することは防がなければならないと考えている。

委員： 学校現場では、先生が「黙食をしましょう」と言っているため、子どもは言われたとおりにしている。文部科学省は、「必ず黙食をすることは求めている」と言及しているが、長野市教育委員会としては、学校に黙食を求めているのか。もし求めていないのであれば、そのように学校に働きかけていただきたい。

事務局： ニュース等において黙食という言葉が多く使われていることから、学校現場でも、黙食という言葉を使っている教職員は少なからずいると推測される。長野市教育委員会としては、文科省と同じく黙食という言葉は使っていないが、感染防止の観点から、大声での会話を控えることや、机を向かい合わせにして食べないこと等、給食時間中の感染拡大防止に努めるよう依頼している。

## 8 その他

## 9 閉 会

## 10 施設見学

## 11 給食試食